

科目名	倫理社会			担当教官	細谷 守		
学年	全学科 2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	07G02 20020		
学習目標	1. 青年期の意義、及び課題を心理学的見識から考え、主体性の確立をはかる。 2. 宗教が人生にどのような意味を与えているのかを考える。 3. 先哲の生き方、考え方を手がかりに人生の価値追求への関心を高める。 4. 現代社会が及ぼすさまざまな事象への倫理的あり方に関して考える。						
進め方	教科書の内容と実際に生じている事例を、知識として把握するだけでなく、自らに課せられた問題として、問題事象への倫理的あり方に対しての直感と先哲等の考え方等を参照しながら、自らがどう対処すべきかを、討論形式及びレポート提出等を通じて主体的に述べさせ、生き方の諸課題に自らが参加する進め方をする。						
履修要件							
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1.「倫理」とは(1) 2.<わたし>とは何か(2) 3.身体と性(3) 4.障害を捉え直す(2) 5.死について(2) 6.私たちの生きる社会(2) 7.変貌する家族(2) ----- 8. 前期中間試験(1) ----- 9.情報社会の中で(2) 10.社会との関わりの中で(2) 11.生命倫理に関して(3) 12.命の意味(1) 13.環境倫理を考える(2) 14.伝統の継承と発展(1) 15.共存する社会(3) ----- 16. 前期末試験(1) ----- 17.試験問題の解答と授業評価アンケート(1) 18.ユダヤ教とイエスの宣教(3) 19.キリスト教の展開(2) 20.インドの思想の展開(2) 21.仏教の思想(2) 22.仏教の日本的展開(2) 23.日本の思想(2) ----- 24. 後期中間試験(1) ----- 25.ギリシア自然哲学(2) 26.ソクラテス(2) 27.プラトン(2) 28.アリストテレス(2) 29.ヘレニズム哲学(2) 30.合理的精神：ベーコンとデカルト(2) 31.近代の人間観(2) ----- 32. 学年末試験(1)			倫理社会で何を学ぶのかを理解する 自己への問いかけを通して、自分自身を見つめ自分たちを取り巻く様々な環境の中で、他者と共に生きる大切さを理解させる A1:4 心理学等を通しての人の本質を理解する 現代社会の中で生じている様々な倫理的課題を理解する A1:2 A1:1 聖書を通して一神教の考えを理解する A1:3 キリスト教の理解を深める A3:2 ウパニシャッド哲学を考える A3:2 釈迦の正覚したことを理解する A3:1 親鸞等の考え方を理解する A3:1 日本の風土と宗教観を理解する A3:4 宗教の基本を把握する 哲学の発生と変遷をたどる A3:2 善く生きることの意義を考える A1:4 本質・真実について考察する A3:1 形相と質料等のとらえ方を学ぶ A3:1 快楽と禁欲の考え方 A3:4 帰納法と演繹法を理解する A3:1 人間の思考の変化を考える A3:4 哲学によるさまざまな考え方を理解する			
評価方法	定期試験 70%， レポート 20%， 平常点（授業態度）を 10%の比率で総合評価する						
関連科目	地理， 歴史， 政治経済						
教材	教科書： 鷲田 清一 監修 「倫理」 教育出版						
備考	特になし						